

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第7区分

【発行日】令和4年3月23日(2022.3.23)

【公開番号】特開2020-152548(P2020-152548A)

【公開日】令和2年9月24日(2020.9.24)

【年通号数】公開・登録公報2020-039

【出願番号】特願2019-53982(P2019-53982)

【国際特許分類】

B 6 6 F 3/08 (2006.01)

10

【F I】

B 6 6 F 3/08 B

B 6 6 F 3/08 Z

【手続補正書】

【提出日】令和4年3月11日(2022.3.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【請求項2】

前記基台上に設けた前記ネジ式シリンダ部材を傾斜姿勢とし、当該傾斜する側に前記支持腕を設けた請求項1に記載の救助用ジャッキ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

30

本第2発明では、前記基台(1)上に設けた前記ネジ式シリンダ部材(2)を傾斜姿勢とし、当該傾斜する側に前記支持腕(3)を設ける。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

図1には本発明の救助用ジャッキの全体斜視図を示す。救助用ジャッキJは詳細を以下に説明する基台1上に伸縮可能なネジ式シリンダ部材2(以下、単にシリンダ部材という)を起立姿勢で設けるとともに、当該シリンダ部材2の上端に、下方へ長く延びる支持腕3の上端(基端)31を固定したものである。シリンダ部材2の伸縮は、その下端側面に突設された回転操作部21に図1に示す棒状ハンドル4の先端フック部41を係止し、棒状ハンドル4の基端に交差するように装着されたL字操作棒42を旋回操作することによって行う。

40

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

50

【 0 0 2 7 】

図2において、シリンダ部材2にはその傾斜側に支持腕3が設けられている。すなわち、支持腕3は本実施形態では鍛造成形された略矩形断面の棒状体で、傾斜して伸びた上端(基端)31が水平方向へ屈曲するとともに、下端(先端)32は基端31とは反対方向へ水平に屈曲して厚肉板状の受け部となっている。そして、シリンダ部材2が収縮した状態では、支持腕3先端の受け部31はその下面が、基台1が設置された床面Lと平行にこれに近接して位置している。

10

20

30

40

50